春秋

特別
へ5
6590
65

へ5
6590
65

八月八日大菜山寺

名月を頂く松の星さらば　二貫

持て来るあの肩の月　漣

行てみるせれ亭彩糸岩代刈て　松二郎

酒の肴ひろ拾へ　松葉

宝ありわれ仏ぶ船遊び　多

信濃路の名残惜しき　鈴花

秋さらばみよろの月に寝む　青石

銀子の歎と暑いとはぬ　料化
東しぐれ霖雨の晴より　笑
硯の海に白き雲の色　石
燭臺の光りきらめく紙の帳　角
思ふと知りつゝ這ぬ念無　化
玉の光の法も佛燈菩薩照り　右
い川の夕やけ傾く日の錦　化
婦人にあふ様なられまを持せ　角
み川と笑窟の深きに根　里伯
書画も今残暑中の芭の色　茫
ぬるみゆく瀬にかゝる板橋　ゑ
乾くも秋の稲めぐりて迷し　鶯仙
諸跡もまゝに浮む新茶細　角
荒治りゝ直りし後の喚しく世　仙

松島や夜を追ぬ　笑
風乃吹来へと吹つ秋てし　曼
行を帰せり角力の登て取　仙
下さりし満代の味椿掛けかち遊　翁
禱り喰て樽車引青　枝
再興といへと新が宮書請　北
捕て前出桶のき進ず　翁

梅の新月の程つゝ徳り寺　仙
戎だ姆しく尚有りうき秋　翁
山蔵川陽て冬ゝく隣の気戸　笑
樹を去して来の所る　北
箒掃傳をそあも花の気出たび　曼
屋京米寺の武　仙
日もちず中千舞も実心もあるもの花　石

清水浦里の桜を詠ず

右の奇絶

雪の花か浮世を改めて
待て暮るる月の見るかな
葉の葉に蓑の葉に蓑の
桜の色を幸まるる月見ば

[illegible]

[illegible]

詩一首 奇絶 ホウシ

名月や撥鬢勝るもの人の秋

夏の月中宵帰る舟かり　鉄古

葉しげりて又一しほの月ぞくれ

ばせを翁千歳の酔　松二

いはれもなき怪我の跡しきて　東游

根元へ七十年にたらぬ宿の立ゑり　松英

扇子合の菓丸を座直し　、

くらがりを急ぎて跡なし　二

風しむかふ朝まぬ満し舟　古

友呼ぶ中の声賑しき声　游

仕立物は起き沙汰を取り　英

年は積もる客館　古

再建の宮造の寄附の札　游

亀甲を造る松移十本　英

透と云ふて夜半より程の河原まで　游

人ぬ眠てみたまゝ揃ひ揃　二

清水寺あるあきの月の面　二
おくゝ思ひのそとの梅の香　英
月に言ふてい少年の事し
あ沢に梅厳の境　〃
ふるさとの法華堂て天保元
古屋ちりと行て梅上　〃
紅葉雲ふ花い多の形を信ふ　酔

三ウ
あ毛袖捨ていとゆかるあき　英
西ゆ和くうらの果　〃
頭ふる髪花ふ蓮の下　〃
立ちとまれ沢の雨未　二
聖ゝ世界も墓の花盛り　〃
行ム猶を信ん　酔

二ふ〳〵と耳もとを過ぐる寺の滝　二
嶺にて鶯の初音聞く　英
清水に初音聞くかの鶯の
うたてもなんあるかな底の唐衣　古
陳ふる家にやさらに梁の水　游
何ふるとなく春の景　二
さやとなる夜の月　英

猶も鶯の新音あるかな　游
そゝけたる市の書数の枝の色　叶化
花ふるふて春風吹く　丶
もゝせもゝもゝ花の雨とぞ　英
その仲の酒の酒　化
酒〳〵仲の酒の酒　丶
そゝ人拙者は三位俳を加　丶

高砂に旅行の時詠む　二首

宮殿の中の小松乃袖も古石

ちとせ万代の梅の枝さす　歌

今年春さきかるる雨の音　函

高砂に行くみさを盛の音　笑

この年の春さきかるる雨の音　左

春さきもあめの小松の根の葉へ　笑

行て帰りの舟の中歌　春

右の中歌

第月半一日の舟宮参り　星伯

高砂や尾の月

馬ものの鼻より吹かぬ小春哉　松二

鶉なくはさあて机上の硯一　千穂
立乳し行たてつ登り　弥化
あふみは波ふすまへ雨あふの里　升六
さのこ暮らて風の猫よき　賀帖
盆し声は綿いうせて氷り　称面
みこよふよこの月の坂　い
枝よりも晴のゆりみし若竹の賞　化

作と雨村とて名は雅も花　毎
夕暮るの日影も白ふひさら里　い
天か夏猿子姥子拾　杉
二人り出カいまてと曽他出　六
詩は平仄ふ二前八字三十ハ　拾
頭中て俗の清代も称の治　化
松も露て波ふ菱なり　六

うつろふ　春子伝和尚ひ果て　伯
境に向て二月朔日　右
行秋の朝小雨の　月　移
蟬の声ひふきの音　亡
をしまへて緑陰の影　主意
かりて月白金子と　子宝　乗
さの風ふかぬ日の八幡宮　二

声高きを砂に　雪　右
石亭仙月

冴て海底春の月　蚊化
袖屏風行くれの春　沙長
月雲を立て海川　春亡
京の山の秋の月夜氣　二夢
涼のさへ七尖　主翠

星のかず玉敷と見て落の月　孤月
唐土にてなき後家うらやまし　千杉
水鶏うつろひ寄　杉二

九月十九日　松島にて

野辺を虫や待のうかれて秋の
月のかげと思ふ方の星　孤月
角力取の出の秋遅て　桔梗花にて　里伯

星のもきつれ出る　杉二
深夕のもあはもそそ結ぶ　東游
雨を得て八方の入　竹他
かけ寄り鞠下に罠上　伯
思ひ知るこゝ山伏　游
きの場を寄せて鞠を　化
第へ杉小名月

翠

立春の雛の影の動くなり　白伯

鶯鳴くや市の藥師　化仙

さつくと堂守まるる山松　二

こるくと更る戸隠の神　ハ

歯の痛み止めハ小指の疵をさし

思ひ切る帷子の行　仙

ちりちりと夕ぎ廊下新さよ　潮

二月中の頃小海橋の名　翠

底を見る目の辛夷蕊　男化

鶯かなと顧ハ丁目　翠

小港にうつる大船せうあり　化

色て苦色多し　陶伯

風景の画に写すものぞ　潮

雲を屏てきのふやき　男

右短冊行

あら山樵をそ秋の行末

里伯

さら白の里を徐に行水の

水游

ゆく秋を一入惜さ熟柿哉

竹化

かつら馬や秋の行末の淀七里

那為

虫のこゑ尾張の国の幸隆

士友

秋の雨〜気色に入て世相なる

松二

沖をそ思の情を影

ろろ百合寺男人詩

野ありて

うゝ人あるの探ゆ小春哉

無尾

きをとゝもとゝ秋の花

松二

沖の風ゝ老を生ぬ鹿らん

珍碩

右之句

[illegible]の[illegible]に[illegible]桜の花　杉二

訪ふて友が[illegible]の[illegible]と　加[illegible]

隣[illegible]時半の[illegible]　[illegible]

[illegible]市の[illegible]

[illegible]目[illegible]に[illegible]

[illegible]きし四[illegible]の月

[illegible]より以後[illegible]

右八[illegible]

[illegible]時雨　[illegible]

[illegible]時雨[illegible]　[illegible]

小[illegible]　杉二

六月十日て五位山ゝ如意庵にて
翁の画賛　静き田村吉京両連
見るも此芸ゝ作くや玉椿　是介坊
多くのれもちまた山の年　京喜多会　喜友
陶の釜も宿見侍ありて　素水
ますこ彩等の雛めけぬを　松宅
言の皿八目鑑を年に行けるし　不石

松のみ残して盆花　声蛙
十万里海から川と萱ヶ風　杜年
翠葉屋よ学て翅る翁く　延之
かりかねもせゆ子佗の飯煙ひ　三勢
合(カリ)山風の簪の活ふり　吉蔵
桃解にみすき太元の夢のこゝろも　小子
活くゝ如く子ふ白ふ碇(ハリ)　林枝

縄とりみ也の紙将から二の露　湖雲

法ふの持し手植の姫　穆風

撥もる比の須田ゆまとの寫無壁　松雫

花翁雲水の庭の下流　竹元

晴る子月ハ出すゝみさし翠り　魯有

新の跪上らし袷よとるし　古仙

二タ御の道迷ハせぬ虫かし石　鵜飼

足まゝに歩時も是月　中二

涼しさのも名み合ふ花径合　蓁霞

青みき眉のこ三月の草　里也

二ヲ

永の豆二人ら中を讒られて　和光

京の田舎とも住も西ふ　花笑

かうくとてのほ山の牛車　里笑

美さ也をみ候付の淀　自笑

雪さかもりとなりて雪ぬかの
はい初とる雪ゆゑ雪ふる　顔　白雪
雪庭あるて雪の杜まを踏ゆく　桜葉
杉ゆ根ゆ根ゆ　雪川　菜花
滯（ミテノウラ）のそうもくとしてうちきよ　松二
その人を雪ふり　赤葉
雪ふるはいまりこれとろ本百姓雪　竹我

二十五　みちさきのいはの苔
うそ寒く　彼岸のふかを雪の川
岩の尖りの苔の面　ゆき　可水
お姉の見形　進のる　鶯つる　彩園
上手に　雪くらたる　吸亮　紫原
一時ゆ　雨ゆ　雪ふる　止れ　石無
白戸の雪の雪の雫の滴る　涼堂

二ウ
婦人も枕に聞かけるさよさゝさ　似花
足ぬ所へも出来て源枇　青甫
声しるよしや里ける首井戸　如柳
螢火もあとぬ草の露なり　東泉
名月を備りし月の杖添し　只業
雨もいとひ涼み海京城之向　咄月
村中して哭云あやさうし庄司居　知鶴
所ならに出来ぬ陳謙
薮むもゝ覆しまれて飛さ出　一止
小で向られ去なれ乍寄　竹洲
三オ
法杖のまみ流る松折　一寸壺
沙石ゆかて袖乃移り香　匡橋
古傘の柄ヒ高とふ濡る凝髪
柊の花のに結び当付たりきし　松泉

侍る位の影と直のまゝ結縁　三冬
分て暖く生姜振也　環之
植ても又桔梗のうつし彩羨金　可然
よそよの春しもちのうへ汲風　兎月
兄弟ハ此娘嫁丈集あふ頃まとへば　三兎
漸無くして疱瘡の行と　山然
紫頭巾座の影ハ白菜の花ちらちら

影ふ近くなりて本津の月　半子
角力ふとて帶留ふ其上の人　如之
根曳し合し鋤鳴すあり　花拙
松原ましよ擴ルハ水沸して　松月
争ふ此娘り共真薬ふ入り　幸枝
捨るとせんとみならしたり香ふ曲　露葉
うらかなく甲如是候に縫來ぬ　馬ゑ

秋篇の一二あるべきを始豆腐　義六
一夏五十の少川　北和
笑ふかけて知るまきの白菊　芝蘭
後員ふるく知るる時雨　柳雨

右七十二月

お野のまられて起るは十五夜　芝石
外はうぶ松も風ぶあるかな　松葉

踏とゝめ初霜の裾の裾の裾　松二

嘉修月初の名月興行

友の名を千夏稽小松園　松二
彩雲秋長夜の友淋の名　茶石
あるべきの風俗や夏もん　樓雨
山十畳ち月て不もん　秋岳

無[illegible]ゆめとろさく　里伯
[illegible]　竹化
松[illegible]　松英
吹[illegible]　二夫
[illegible]　有石
大[illegible]　楓池
[illegible]の[illegible]

小[illegible]　[illegible]の[illegible]ふる
[illegible]の[illegible]に[illegible]て流れ　[illegible]
[illegible]て[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

いつしかに世子の是如来を
法華経の経巻
をせさせ給ふ名誉天魔
都　みやこ　鄙
風　ふう　遠国風俗
所　ところ　郷　いなか
年　ねん　細　こまか　面　おもて　武　たけ

門　かど　礼　れい　法
市　いち　礼　れい　法
友　とも　師　し
師　し　弟　でし
教　きょう　全　ぜん　人　ひと

涼さに夜のこゝろ雨あかり
蕉翁の御法の席ぞ明
咲出し花もさいも打つどひ
つどひて競ふ餅の春
右歌仙

上下の加茂ゟ見わたす千鳥かな　楓池

負鶴より浪の境や龍の淵　孤白
雨月の酔浮し床涼や鳴の聲　菜石
夕やけのをけしき浦や鳴の淵　二丈
長葉そよ淡きくろや秋の声　松堂
千茂汁の春雲行流て千鳥哉　竹化
残る手と淋しき露の香りかな　浪右
鳴やすり淡路ふ淵が上ふ舞の面　右石

[illegible]の[illegible]の[illegible]ちとり　星布

一羽でも[illegible]ぬる[illegible]ば　二

[illegible]月中の一句

[illegible]を[illegible]ハ

[illegible]て　松二

探[illegible]ものや[illegible]の　玉雄

[illegible]ものほき云　[illegible]

[illegible]の風や[illegible]　蕉風

[illegible]川つれて面[illegible]　松葉

[illegible]る[illegible]奇　星伯

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]化

[illegible]月のて[illegible]　沙花

[illegible]　[illegible]

[illegible]の[illegible]　[illegible]

[illegible]の[illegible]　[illegible]

詩をそそるにふさわしい　嶺是　長翠
思ふにとゝ西北を見ひの石　二葉
華ひいあるぬ行方の岸　東海
吉辰と幸命うちも辰宮遷　一角
第宗第一陽のとれ陳　楓池
紛まを実眉て宗ものを　羅六
稽子も老みるを前代　子

右百韻を展

通朝

何をそんて寂寞の国郭公　欲長
雀の眼の中の松の物語ふ　杉莫
やうの春の稽子ある星の屯　古石
子一向や一功きつさ瓦物の有　竹化
をとゝ物きさ瓦物の小有ふ　里梅

小枝をハ始まへぬ雪力乳　那由
ゑ風雪乳新水小路の泥雪　菊石
立ちそ　むけぬ泥　やぬ雪　松二
雪乳て雪乳笠　神詣　主翠

大阪月雄の八月雨

代表の戸　陸乳　むそ乳　雨石
友雨て　鶴卵泥　桜笑
菊乳　年泥の雪　桃化
器脱　雪の泥　雪
名月の新水　を掃て　松二
雪の　入の　泥　那由
元ゆて　行不　乳る　土竜　英

西のあつ風のそよぐ
高きうてゑ〻賞〻小夫人
公縄行てと招く 楠
老母呼うつ枕もと
日も暮れ秋の虫音
鞍壺を抱きうれて分懸
持うもまさ廊の風

化石 ヽヽ
英恵 英

嘆きの小夫人 御
はるく〻と暮れ 侍
月ア石行後くけて高松
ゆうて知恵ある子宝
菓子ふ〻貴船月の華
義の下枝ア寺 侍
一法の寿を祈せて寿の理

化二 英二 化二 英二

はくを止て今ハきゝけ　莫

芳信甲斐の方てまきこ[illegible]於　化

山の[illegible]いとゝ増る　恋

右雅言集

[illegible]の山寺の風呂の遊蓋　恋

[illegible]十[illegible]雅言集の[illegible]

[illegible]の[illegible]　杉夢

[illegible]や[illegible]　杉二

おもしろくも五穀豊熟の
しるしなれや
稲みのりみ穂の波のよしの栄
幸はこゝにきはまりて
実に千代の春かゝる所なりと
ありかたくこそ
峰も山も蔦紅やの紅葉

平よりもときうつり　春の花
此景の咲顔を常なるの
人もきれハ
七草の儀も諸所一日に
其後の五夜の燈を高座に
山氣もゝ人我もし　猶る雪
梅の香や　雪人徒えて
原氏も讀て日高　五二

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

大[illegible]あり[illegible]の和歌 俳歌

[illegible]

[illegible]

右題[illegible]

[illegible]

[illegible]

めいわの一方第名無乃
相国律師殺害仙方乃事を
上京ちかまつを移しまし
ひと行ひ高元時の事の義
ちをしまし多川神ゝ怒し給
御安仙上人上洛の御方にて
とくさ氏に来よ双来の七の意
多をもうけて

時

和光仏法の上京をうけて
陸奥元たの事乃やゆよかう

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]二三日　石
[illegible]の状況の考へ　霊
[illegible]　石
[illegible]の湿気の[illegible]　英
[illegible]の細[illegible]　潤
[illegible]道　灌　左
[illegible]仕迄[illegible]慢さ[illegible]　[illegible]

[illegible]を選び　州化
[illegible]ものを立一角
[illegible]
[illegible]　化
[illegible]　石
[illegible]　化
[illegible]

大井川遥まで水の喧しく　游

山下樹ふる葉の薄紅葉　角

紅葉ふる高きたかきの月　丸

谷の嵐のうつる夢　白

あるうちもめうもめうもめう

美しうてもあり梅の巻　竹化
外ゝ梅ゝ桜やの庵　古石
霞まして雲の間ゝ梅　雪
もとゝ為を離れてゝ梅の花　雪
梅の子ゝ月よりはこゝ雪　一角
梅の月朝ゆふ霞の巻　松二

梅の月　知一

梅の月ゆふ霞の巻

梅の月ゆふ霞の八重霞　知一
きるかゝ菜の間ゝ花ゝ八重桜　雪
きゝ馴れと老せぬん　廉
いつても清きゝの八重桜　波右
後年ゝ春の峰の雲ゝ　松二
後世ゝ人もゝ忘れ道　松葉
一角

[illegible]の月の[illegible]　[illegible]化

[illegible]　[illegible]

[illegible]日[illegible]の[illegible]　四[illegible]　[illegible]　角

[illegible]　[illegible]　三[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　

川水ハ流レテさゝ〳〵山ハ高し　為
道左右の古跡ハ能ク〳〵ゝ　不
ゆ遠れの引ケたる鶴卵酒　化
米の小笠原ハ高く〳〵ゝ　草
為春の二字ハ初ル春　唐大和　游
油の紙一四宗の史　二
金箔の書なれ　化
ゝ

てゝ夜のまくさきあぬ色　游
重ねてまくらに敷る月の氣　不
石を立んて立麻ハ　た
搭ハ立ゝ高ハ形ハ白い　為
書ハ白て筆の字ゝ　二
古跡を尋ぬる限の大きゝ
搭ハ立ぬ　朗

角

桜葉て谷の戸深く蕗花
さとの春て稚子を恵
春の山川

神の市乃御うら霞枕くら
戸に霞中の帆舟や春の海　一角　鶴氏
花に人や霞の中に霞屋　竹化
一日〳〵波も霞の気　青石

人間より八重霞の桜の　桜里　鶴山
隅田川源五　春霞　松英
海山の霞も多う　夕霞　聖嘉
鄙松一角ありしとう霞の気　松二

京の人和の口杉恵鶴仙あるじ
上京の途中にして

徒歩にて五里ばかりやさしてゝ時
引ゆく駕ふ鶴恵
かゝ来りかくれみすゝ雄
そゝぬ里人ゝ井戸道有雪
幸と月ゝかゝし
彩ゝ屋凡き杜の宇陽

若葉
鶴仙
閑吉
風流
孝白

出立いとゝ寒人の宮ゝ美烟竹
彩ゝ砂ゝ林の名所
日ゝ林ゝの道ふ森の陰

一角
松英
玉恵

けゝ法ゝ五ゝゝ
有ゝ弘法代ゝ岩石の
土ゝ月ゝ十ゝ五ゝ表ゝ

松二
吉石
里伯
世化

吳竹の杖ゝ

[illegible] 東游

[illegible] 昇山

[illegible] 砂

一角[illegible]の[illegible] 恵

[illegible]人の[illegible] 蘆 伯

塞せと[illegible]橋を 芙

[illegible]り[illegible] 恵

[illegible]の入わたる 乙

[illegible]の[illegible] 二

作せ[illegible]の[illegible]の[illegible]の

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

行を作て書紀
第一巻の作り月乃様
笑ととなる物のごく
物のうち笑てもの第三の
枝のうち枝うち
枝書り月紀と高ゆすり武ほうり
下ちうて写ち立あへ

源氏化粧
翼
降
化
伯
六

諸人の高て書くもの第
高枝風ふ声の
右奇仙月

仙生十六歳秋立
彩雲かけりて
天乃弁月ちや
色や角と書写に

仲化
昇六
義石

[illegible]

[illegible]　　松二
[illegible]　　吉石

[illegible]　　六

祝の[illegible]の八百[illegible]を[illegible]と[illegible]　　二

[illegible]の[illegible]の名[illegible]　　乙

[illegible]て又[illegible]の[illegible]　　六

川[illegible]花を[illegible]き　　化

[illegible]草謎　　春

初[illegible]の[illegible]　　六

[illegible]き　　八

[illegible]の声と　　化

[illegible]の[illegible]　　石

[illegible]の[illegible]の[illegible]　　六

[illegible]の[illegible]の[illegible]　　吉

[illegible]の[illegible]の[illegible]

[illegible]の[illegible]の[illegible]

[illegible]の[illegible]の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

屏風の画 紅葉を折ふし手 二

唐も渡ぬ世のハ変易 古

一日も庭の紅葉ぬ紅葉 二

不図見ひ出た情の状 貫

ひとすぢ絵の梅の枝を打し 為

羽紙を流す涙 擬情

見ぬ世の油乃もと夜の母

忘れ水ハ海ゑ 西京の長

笠根うゝ江戸へ八百里 二夕路

実てあるよ所の雲の色

素戸にさゝ風とうとの見し

きゝをるよう屋を吉

散ノ梅ノ実の入る月の秋

ちゝの去離四貫ノ来ル

[illegible]

[illegible]

人心風俗を[illegible]

[illegible]

右[illegible]

[illegible]

[illegible]

二

[illegible]

[illegible]

[illegible]

柿ゆ玉垂の新のさしぐり　高安
見賞の方へ柿葉のつけ　物部
雪ゝ鶯いろゝ指を繰へて　物部
ものゝあやめも見ぬ雨あり　竹化
天上ゆ入れ花の月ゝ時雨あり　芙
来ぬてかけ宮の梁　二
かけまゝ蓬て焼き　仍
何ゝ雨ゝ降ゝ　左

ちゝ月ゝ見て祝ひて　六
新穀まゝ蓬れし　化
見ゝんと小屋ゝ別ゝ室ゝ　化
初鹿い柿の橋もきの色　六
拾ゝ境月の柿ゝ隔ゝ　ゝ
破　磯敢ゝ面ゝ踏ゝ　ゝ
屋ゝも柿ゝ　六

[illegible]

安仙

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

山家川端にて　尊子

[illegible]　芳

[illegible]　六

[illegible]　二

[illegible]　伯

[illegible]　乙

[illegible]

中睦　[illegible]　時雄　子

右世吉行

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]の[illegible]の渓[illegible]や[illegible]　杉美
[illegible]のうちや作[illegible]の[illegible]　[illegible]
[illegible]の[illegible]やわけ[illegible]　杉二

[illegible]百[illegible]
世[illegible]の[illegible]

歳[illegible]や　[illegible]　羅六
風[illegible]　牡化

[illegible]の[illegible]の[illegible]　[illegible]
[illegible]　杉二
[illegible]（ハウカウ）[illegible]　[illegible]
集[illegible]　[illegible]
すんと[illegible]の[illegible]　[illegible]
[illegible]の[illegible]　[illegible]
[illegible]の[illegible]

無弁なく道の障りき
[illegible]
[illegible]
法法の[illegible]
[illegible]
[illegible]
書[illegible]
右[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]　　其水

[illegible]　　山吉夏

[illegible]　　鶯山

[illegible]　　素堂

[illegible]　　海夢

[illegible]　　柳馬

[illegible]　　柳雨

[illegible]　　松二

[illegible]　　湖也

[illegible]　　素石

[illegible]　　里伯

[illegible]

泥石所〻痛むあか板
庫裏まてに沓縄の
雨の屋根に加ほうの
もの仕事者て
簾なし障連う
ゑ〻所て時の義
打〻〻〻かあての
冨士さげた
名や封きう巻子〻
絶てその場原つれ
とあてとあの
叫ばきて洞地いは
ひり利て古
こう〻と梅きつと

[illegible]の[illegible]の[illegible]
月の[illegible]まで[illegible]
[illegible]
[illegible]

五の夜

[illegible]

[illegible]

[illegible]